

# 平成28年度学校経営計画表

## 1 学校の現況

学校番号	82	学校名	茨城県立石下紫峰高等学校				課程	全日制		学校長名	渡邊 宏明					
教頭名	柴山 修二								事務長名	棚井 一博						
教職員数	教諭	33	養護教諭	1	常勤講師	5	非常勤講師	22	実習教諭, 実講師, 実習助	1	事務職員	2	技術職員等	2	計	66
生徒数	小学科	1年		2年		3年		合計						合計クラス数		
		男	女	男	女	男	女	男	女							
	普通科	65	94	71	82	52	84	188	260						12	

## 2 目指す学校像

- 1 「心の教育」の充実に努め、人間としての在り方生き方の自覚を深め、豊かな人間性を育成する学校
- 2 心身ともに健全な活力ある人間の育成を目指し、自主的活動を推進する学校
- 3 多様な進路希望に対応し、一人一人が主体的な学習を通して自己の能力を伸ばし、自己実現を可能にする学校
- 4 実践的・体験的な学習を積極的に取り入れ、適切な勤労観・職業観を育成し、社会の一員として活躍できる人間を育成できる学校
- 5 保護者・地域社会との連携を深め、社会から信頼される開かれた学校

## 3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	基礎学力の定着を図るための少人数・習熟度別授業の実施は、おおむね効果を挙げている。また、昨年度、学校設定科目として実施した1年次に対する中学時の国数英の復習の時間及び日本語の理解が難しい生徒に対する日本語を補習するクラスの設置は、十分な効果を挙げている。	少人数・習熟度別授業、中学時の国数英の復習の時間、日本語等に関する学校設定科目などの取組を実施しているが、まだ学力の個人差が大きい。より生徒一人一人の実態にあった授業の工夫と生徒が学習に対してより意欲を高められるための取組が必要である。
生徒指導	基本的な生活習慣をしっかりと確立する必要があることから、学校を挙げて毎日登校指導を行っている。不適応等の未然防止のため、特別支援学校との連携及びカウンセリング体制を整備している。	生徒の規範意識や家庭の教育力が低下しているため、生活改善のための効果的な指導体制を強化することが必要である。
進路指導	1年次のインターンシップ、2年次のデュアルシステム、2、3年次の自由選択教科の履修など、3年間を見通したキャリア教育は、一定の成果を挙げている。また、昨年度、学校設定科目として1年次で実施した、自らの特性の理解を進路につなげる取組は、生徒からの評価も高い。	より一層の勤労観や職業観の醸成を図るために、生徒自らが学校で実施する様々な取組に問題意識を持ち、主体的、積極的に関わっていけるようにする工夫が必要である。それぞれの行事を通し、自分さがしをする意識を育てたい。
特別活動	生徒会役員へ立候補する生徒が増えるなど生徒会活動が活性化されつつある。部活動への加入率がやや低く課題があるが、各部門も顧問指導の下、積極的に活動している。	学校行事において生徒が自主的に参加できるよう生徒会活動や部活動を一層活性化するとともに、その成果を地域に発信する必要がある。

#### 4 中期的目標

- 1 学ぶ意欲や基礎・基本の学力を育成するため、単位制を生かしたきめ細かな分かる楽しい授業を展開する。
- 2 体験学習を充実させることにより、人と人とのふれあいを大事にし、社会性を育み、自律した行動ができるようにする。
- 3 個人面接や進路ガイダンスなどきめ細かな個別指導・課外指導等を随時実施し、進路目標の実現を目指す。
- 4 ホームルーム活動や部活動などの集団活動を通して、心身の調和のとれた発達とコミュニケーション能力の育成を行う。
- 5 家庭や地域社会との連携を密にし、積極的な情報の公開に努め、地域に信頼される学校づくりを推進する。
- 6 アクティブスクール改編に向けた教育内容等を検討するとともに先行実施した学習方法を検証する。

#### 5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
基礎・基本の学力の養成	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 「ISベーシック」や各授業を通して、基礎学力の育成を図る。</li> <li>② 多様な個性の生徒への、きめ細かな学習指導方法の工夫・改善を図る。</li> <li>③ 授業公開の積極的実践と相互研鑽を行い、授業展開の工夫等の教授法の改善に努める。</li> </ol>
基本的生活習慣の確立と生活指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>④ 生徒の日常の生活実態を把握し、家庭と連携して規則正しい生活リズムの確立を促し、基本的生活習慣の確立のための指導を充実する。</li> <li>⑤ 欠席、遅刻、早退を減らす。正しい服装・頭髪への指導を行う。交通安全指導を充実し、あいさつの励行を図る。</li> <li>⑥ いじめや問題行動等の未然防止と早期解決を図るための指導を行う。</li> <li>⑦ 好ましい人間関係づくりの指導・コミュニケーション能力の育成を行う。</li> <li>⑧ 規範意識の確立、道徳心の高揚、他者への思いやり醸成のための指導を行う。</li> <li>⑨ 個人面接等を充実して、生徒理解を深め、生活面で適切な指導を行う。</li> <li>⑩ 教員間での生徒の問題の共有と共通理解に基づく共通行動体制の確立を行う。</li> <li>⑪ スクールカウンセラーを積極的に活用し、学校と家庭との連携を図る。</li> </ol>
進路指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑫ 3年間を見通した計画的・系統的なキャリア教育を推進し、生徒一人一人の興味・関心・適性に応じた「自分さがし」を援助する。</li> <li>⑬ 個人面接等を充実して、生徒理解を深め、長所や短所を把握し、進路面で適切な アドバイスを行う</li> <li>⑭ インターンシップ等を積極的に推進し、望ましい勤労観・職業観を醸成する。また、学校見学、各種ガイダンス、検定試験、必要に応じた課外等を充実する。</li> </ol>
特別活動の推進	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑮ 生徒が活力ある学校生活を送れるように、生徒会・部活動の活性化を学校全体で推進する。</li> <li>⑯ ホームルーム活動や部活動などの集団活動を通して、心身の発達と個性の伸張、コミュニケーション能力の育成や他者への思いやり涵養などの社会性を育成する。</li> </ol>
アクティブスクールへの移行完成と改善への取組	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑰ ISベーシックⅢ及びISキャリアスタディⅢの円滑な運営を実施し、ベーシックⅠ及びキャリアスタディⅠからベーシックⅢ及びISキャリアスタディⅢまでの系統的な指導体制を完成させる。</li> <li>⑱ 先行実施を含め本年度で完成するアクティブスクールを、PDCAサイクルで見直し、より効果的な指導体制に向け改善を実施する。</li> </ol>
地域から信頼される学校づくり	<ol style="list-style-type: none"> <li>⑲ 文化祭等の学校行事への保護者や地域住民の参加を促し、地域へのボランティア活動や地域行事への参加を行うことにより、本校への理解と評価を高める。</li> <li>⑳ 近隣中学校や地域への広報活動を一層充実し、学校の特色や取り組み・活動を広く知ってもらうことで、学校への評価と信頼を高める。</li> </ol>